

広報

の あさひ

No.374

'88

1/1



祭正

辰年に舞う 豊龍神社の大獅子



生きた外国語を
学べる国際的な
町づくりを



朝日町の
確かな一世紀を
築いていきたい



洋大の仲間と
ワインまつりで
再会したい

大町／柴田香織さん (23歳)

自営 (菓子製造、販売業)

大隅／大竹史之さん (20歳)

農業 (りんご園経営)

元町／鈴木高光さん (22歳)

自営 (清掃業)

感動の連続、県青年洋上大学

○司会 新年あけましておめでとうございます。今年
は若い皆さん方から青春パ
ワーを大いに発揮してほし
いところですが、今日は昨
年十月二十八日から十五日
間にわたって第十回県青年
洋上大学に参加された貴重
な体験をもとに、新年の夢
や抱負、そして六十四年
オープンを目前にした家族
旅行村など町づくりへの提
言を、存分に語りあってい
ただきたいと思えます。

私も昨年は「県民友好の
つばさ」第四次訪中団に参
加させていただき、中国大
陸の歴史や文化の深さに感
動してきた一人ですが、始
めに皆さん方から洋大で特
に印象に残ったことなど
について、一言づつどうぞ。

○柴田 何といっても感動
したのは中国大陸のスケール
の大きさ。それと、対象
的だったのが機械によらず
人的労働力を駆使して開発
を進めていること。いろいろ

ろな面で未発達な点が多く
むしろそれが新鮮に映った
気がします。もう一つは、
県内の数多くの仲間との出
会いと、何もない船上での
貴重な生活体験であらため
て自分を見つめ直すことが
できたことです。

○大竹 十五日間のすべて

“国際化の町づくりを 101年を飛躍の年に

が感動の連続。初めて体験
した船旅の楽しさと船酔い
の苦しさ。そして中国で見
た地平線の広大さ。百聞は
一見にしかずということ
身にしみて感じました。

○鈴木(高) 中国の帰りに
沖繩に寄港し山形の塔を参
拝。みんなで県民歌を合唱
しましたが、涙があふれて
仕方がありませんでした。
自分達と同じ世代の若者達
がどんな思いで死んでいっ
たのか、あらためて今の平
和のありがたさを再認識さ
せられた思いがします。

○渡辺 やっぱり船上での
生活が一番印象深かったで
すね。船上は外から全く閉
ざされた世界で、三百二十
二名全員が運命共同体のよ
うなもの。同世代の若者た
ちと同じ生活体験ができた
ことは、自分の世界が大き
く広がった気がします。

○鈴木(和) 中国の青年た
ちとの交換会で、彼らが中
国はもとより日本の歴史や
文化について実によく勉強
していることに驚き、反省
もさせられました。

新春座談会



若者が先頭に
立った町づくりを



演劇を通して
文化の創造に
青春をかけた



世界のりんごの
木を集めて
りんご観光園を

司会／広報委員会副委員長
長岡捷治郎 (企画課長)

四ノ沢／鈴木和美さん (22歳)
朝日相扶製作所勤務

宇津野／渡辺惣治さん (22歳)
西村山地方森林組合朝日支所勤務

世界から地域へ りんご園

○司会 いまのお話の中でとくに中国青年との交換会のことがあったわけですが、その他に感じた点は？

○鈴木(高) 中国の人口は十一億人あまり。子供は一人だけという出産制限につ



国際交流の主役は青少年 (中国にて)

いてどう感じているのか聞いてみたら、批判よりも現実を見て従うしかないとの考えが徹底しているのには驚きましたね。

○大竹 それと万里の長城や故宮などの広大な史蹟を目のあたりにして、中国の歴史の深みと権力の大きさに、はかり知れない底力を感じました。

青春パワーで りんご植栽

○司会 船上での体験やゼミなどの研修を、今後どう生かしていくお考えでしょうか？

○柴田 県内各地に友人がで、これから大いに情報交換をしながら地域の活動に生かしていきたい。講師の話の中で、「自分の意志の強さが生きがいにつながる」との話があって、もっと自己を高めていく努力をしなければと思ってます。

○渡辺 ゼミの中で県内の豊富な観光資源を生かしてPRしていくことや、一過

性でないイベント開催の必要性について研修があったわけですが、今後私自身もっと問題意識をもって町の将来を考え、イベントなどにも積極的に参加していきたいと考えてます。

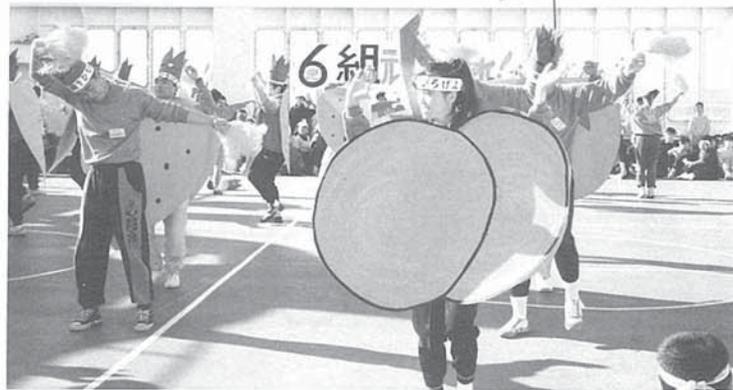
平和の塔、の 塔

○司会 戦争体験のまったくない皆さん方の世代が、かつての激戦地である中国、沖縄を訪ねたわけですが、平和についてどのように感じられたでしょうか。

○鈴木(高) 沖縄の「山形の塔」前での慰霊祭では、私達と彼らの青春時代をダブらせたときに、あまりにも私達は今の平和社会に甘んじすぎて、そのありがたさに鈍感になっていること



若者の人気を集めているパラグライダー



洋上大学での船上運動会

を思い知らされました。彼らのような多数の犠牲者がいて始めて平和が生まれたということとは、絶対忘れてはならないとも。

○鈴木(和) 戦後四十年以上もたつてまだ生々しい傷跡を残している姿を見て悲慘さが感じられ、二度と起

国際交流Goun野村アツチカ

してはならないと固く心に誓ってきました。

○渡辺 資料館を回ったときは同年代の日記を読み、心をゆさぶられました。沖繩へ行って戦争の悲惨さを感じてから中国へ渡れば、もつと中国を見る目が変わったと思うんですが…。

○司会 一人一人がそれぞれ貴重な思いを抱いて、六千二百キロあまりの船旅を送ってきたわけですが、今後の国際化の町づくりのために役立ててほしいと思います。国の四全総の中でも、国際化と国際交流の推進について提言しており、町でもこれまでさまざまな国際交流や国際結婚などにとりくんできました。さらに今、外国との友好都市締結なども検討しているところですが、皆さんの希望や提言をぜひお話し下さい。

○柴田 町でも英語塾などが開かれ大分ことばの研修熱が高まっていますが、や

はり若い世代から生きた会話が学べるようなシステムをぜひつくってほしいですね。外人教師を招いて学校教育にとり入れている町もありますし、それと、私達だけでなくより多くの町民がいつでも海外へ行けるような町独自の研修制度を設けて、幅広い交流を進めてほしいと思います。

○鈴木(高) 賛成ですね。現在町職員の海外研修が行われているようですが、一般の町民にもぜひワクを広げてほしい。それと友好都市についても、同じような環境の都市より産業や文化の違う所の方がおもしろい



朝日町りんご一世紀の時代へ

「りんご植栽100年祭」を

と思うんです。お互いにない面を出しあって供給しあえば経済的な波及効果も期待できる。民間の活発な交流がないと本物ではないし底辺からの広がりがない意味をもつと思います。

○大竹 先に青年団で交流

○司会 ところで今年は、明治二十年に初めてわが町にりんごが植栽されて一〇一年になるわけですが、家族旅行村オープンを目前に控えていることもあり、これとタイアップした新しい

した中国の青年は、日本語が話せたのでお互いによく理解しあうことができました。交流の第一歩はことばです。英語などは六年間も学校で習ったのに全然身につけていないし、生きた学習の場がぜひ必要ですね。

事業など、若い皆さん方のご意見をお聞かせ下さい。

○渡辺 やはり町の特産はりんごであり、このりんごを最大限にアピールすべきだと思ふ。世界に一つしかないりんご博物館とか、世



「町の味」として定着してきたワインまつり



あまの口の人!

われら洋大10回生

界中のあらゆる品種のりんごの木を集めた「世界のりんご園」などもおもしろいのでは。

●大竹 私もりんごに青春をかけている一人ですが、先輩達が築いた一世紀にわたる足跡をさらに飛躍させる意味で、今年は一〇一年記念の大イベントを展開してはと思いますね。

●鈴木(和) 体験観光としては、新潟で白鳥の里親募集をやっていたように、りんごの木のオーナー制度をつくって、町外の人が春の花つみや秋のもぎとりなど

スカイスポーツを旅行村で

●柴田 旅行村に町外の人達から来てもらうには、テニスなどの設備面の充実と共に、家族で体験できる観光をとり入れていくことが必要ではないでしょうか。

●鈴木(高) 旅行村の夏の目玉として空や星を生かしてはどうでしょうか。美しい星の天体観測や自然科学の学習の場として親子や恋

定期的りにんごづくりを業しめるシステムを導入して、大いに都会との交流を深めていってはどうでしょうか。

それと、今年で「りんご村から」の演劇サークルに力を入れていますが、文化活動の活発でない町に若者は育たないし、人も集まって来ません。そのためにも演劇やコンサートのできる小ホールや文化会館の建設をぜひ望みたいですね。

私達の目標として、今年度は東京の全国大会で自前の演劇を上演する夢を大きくふくらませています。

人同士で来れるようにする。それとスキー場の急斜面を利用したパラグライダーもおもしろいですね。今若者の間で一番オシャレなスカイスポーツとして人気を集めているもので、ニセコスキー場などでもスクールを開いています。

あと今回参加して感じたことは朝日町のPRが足り

ないこと。ワインまつりは大分有名になったようですが、私達の手で今年度は洋大生全員をワインまつりに呼んで、町とふれあえる交流会を開いては、とも考えているところです。



●赤い羽根共同募金へ

- 戸別募金 七三八、六〇〇円
- 企業法人 一三五、〇〇〇円
- 商店大口 二二五、〇〇〇円
- その他 五五、九〇九円
- 合計 一、一四四、五〇九円
- 歳末たすけあい募金へ
- ▽町内戸別募金 七三五、三〇〇円
- ▽町仏教会から毛布、シャツなどの物品 一四〇点
- ▽本町の佐藤昌俊さんから現金 五〇、〇〇〇円
- ▽大谷二の塚本且道さんから現金 六〇、〇〇〇円
- ▽大谷四の松田吟子さんから、ガラスビンに集めていた一円玉など 四、二六八円

●社会福祉協議会へ

- ▽新宿の今井孝一郎さんから現金 一〇〇、〇〇〇円
- ▽山形ヤクルト販売店から福祉ヤクルトの売上金 三〇、〇〇〇円

●明鏡荘へ贈りもの

- 町長寿クラブ婦人部(部長佐藤せいさん)では、会員手づくりによるパッチワークのかべかけを、養護老人ホーム明鏡荘へクリスマスプレゼント。

●手ぬいの雑きんを贈る

- ▽大谷五の長岡みよのさん(九十一歳)から、手ぬいの雑きん五十枚を、わかば保育園にいただきました。
- ▽北部地区婦人会(鈴木紀会長)からも、北部公民館と消防第三分団に、合わせて五十枚の手ぬいの雑きんをいただきました。



朝日町長

小林 富蔵

町民のみなさん

明けまして

おめでとうございます

昨年は正に激動の一語につきる年でありました。貿易の不均衡が依然として続き、貿易摩擦は一層深刻さを増し、円高ドル安の急速な進展はどこで安定するか予想もつかず、製造部門は軒並み深刻な打撃を受けて対応に奔走しております。また、農家のけんめいな努力にもかかわらず、円高ドル安は自動的に日本の農産物と国外農産物の価格差を拡大し、農産物自由化に対する外圧の一層の高まりを招いて、ついに農産物十二品目のうち十品目の自由化の方向が決定されました。

我々は日本農業が生き残り、かつ世界の農業と肩を並べて発展するための強力な農政の確立を国県に求めるとともに、自らも英知を結集して朝日町における未来の農業の確立を期さなければならぬと存じます。そのために町は今、昭和七十二二年を目標にした町産業振興の具体的な処方箋の作

成を民間の識者に諮問。二月末まで答申を得るとともに、朝日町農業の二十一世紀における、作物ごとの具体的処方箋を作る研究組織の設立準備をいたしております。

昭和六十三年を展望するに、激動の輪はますます広がります。貿易摩擦解消をめざす内需の拡大、高齢化社会の対応、国民の生活水準の高揚といった課題と財政の硬直化、この矛盾を解消せんとする税制の抜本的改革の不透明さなど、誠に容易ならざる難問が山積みしておりますが、昭和六十四年開村をめざす朝日山麓家族旅行村の建設に、なされる限り他事業への影響を防止しながら、全力を傾注する所存であります。

町民各位の御理解と全幅の御支援をお願い申し上げます。みなさんの一層の御健勝、御発展を祈念して年頭のごあいさつといたします。

朝日山麓家族旅行村

昭和64年
オープン

コテージ 17棟が完成

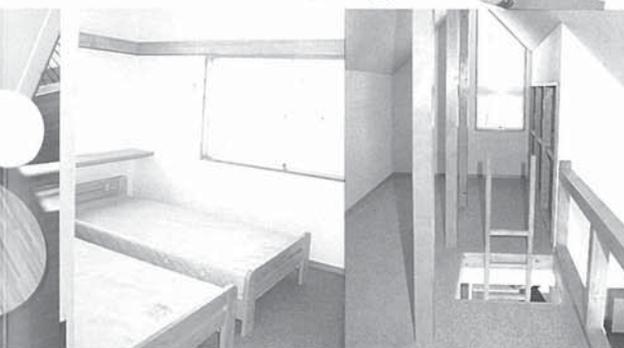
昭和六十四年にオープンする朝日山麓家族旅行村。目玉はなんといつても自然の中でのくつろぎを満たす休養施設。その拠点となるコテージ村の整備が着々と進められています。昨年十月着工したコテージ十七棟がこのほど完成。それぞれ個性ある作りで、洋風の別荘を思わせるモダンな建物ガミズナラやブナの林の中に姿を現しました。

このコテージは、家族やグループなど六人ほどの宿泊利用を中心に設計されたもの。内部にはベッドルームとリビングルーム、それに台所と浴室、トイレが完備され、自然観察や冬場のスキーを楽しむ滞在型観光に大きな役割を果たす施設です。

まだ村内の電気施設や水道施設などの付帯工事は六十三年度に残されていますが、オープンに向け次々に形を変えつつある旅行村、その早期完成と利用が待ち望まれています。



西山材を使ったコテージ



おちついたベッドルーム

屋根うら部屋もあるよ



朝日町議会議長
佐竹 薫

町民の皆様
明けまして
おめでとうございます

皆様方には、日頃から町政に対する暖かい御理解と絶大なる御協力を賜り厚く御礼申し上げます。御陰をもちまして昨年も着実に発展への基盤を固めてまいりましたが、ここに新年を迎え、町の一段の躍進を期して清新の気がみなぎるのを覚えます。

しかし、当町をとりまく諸情勢は長期化する経済不況により、生活は多大の影響を受け複雑多様化するなど、誠に厳しいものがあります。

私共議決機関といたしましては、町民生活の安定向上を図るため、今後さらに創意と工夫を重ね、町民皆様方の御期待にこたえるよう決意を新たにしておりますので、本年も相変わらぬ御指導と御協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。新年のごあいさついたします。



モダン



どのコテージに泊ろうかな



家族旅行村の拠点、コテージ村。



機能的なキッチンルーム

受けつぎを伝えるからいよいよ

子どもは大人をよくみています。いい人がどうかということもみています。それは、言葉では表わせない一種の直感かもしれません。これが次代をになう子どもたちに残る意識なのです。

言葉よりも、私たちの態度や行動をよくみているのです。この辺のことを一緒に考えてみませんか。

こころは言わずとも表われる

今年度も秋に、私たちの部落(大谷第二)でお茶会がありました。その始まりの挨拶から話を進めてみたいと思います。

「皆さん、今晩は。今日は多数の方がご参加下さいましてありがとうございます。特に小さい子どもさんも一緒によくいらっしやいましたね。」

今日は、千宗旦(せんそうたん)という方のお話をしたいと思います。千利休(せんりのりきゅう)の孫にあたる方です。ある人が弟子になりたいと申し出られたときのこと、お茶の先生宗旦は黙って炉の中にある種火を一つ与えたそうです。その弟子は、その後亡

くなるまでの二十年以上もの間、その火を絶やすことなく守り続けたそうです。

さて、この二人には何かあったのでしょうか。一番大事なお茶のところが伝えられればよい、他のことは自ずとわかり、そして伝えられるということではないでしょうか。

今日のこのお茶会は、皆様自身にとってすばらしいだけでなく、ご家族の皆さんにとってもすばらしいことだと思えます。「今日、お母さんはお茶会にいらっているんだ」というだけで、いつもと違う気持をお家の皆さんが持つておられます。ここに大事なことが隠されているように思えます。今日はお茶会にいらってよかつ

たなあ、と言えるようなものをつかんでいって下さい。

それでは、お茶のいただき方(作法)などを教えていただきます。よろしくお願ひいたします。」

「こころは言わずとも表われる。これは、お茶に限ったことではありません。私

言うよりは、まず行うこと

言葉は大変便利なものです。しかし、言葉は自分のところを伝える一部の手段にすぎないことを忘れてはいけません。言葉を過信してはいけません。言葉に飲み込まれないようにこころしたいものです。

あの、子供らと無邪気に遊ぶ良寛さんにも、一つだけ頑固に拒否したことがあったそうです。それは、

たちの人生の中で、口に出さずとも、文字に書かずとも、それ以前にもっと大切なことが受けつぎ伝えられているのではないのでしょうか。いうなれば、どれだけ気持を込めて一生懸命に自分のつとめを果たしているか、果たそうとしているかではないでしょうか。

人為的、作意的な言葉に接したときでした。この良寛さんの戒めの言葉が伝えられております。

- 一、口のはやき
- 一、さして口
- 一、てがら話
- 一、へつらうこと
- 一、あななどること
- 一、へらず口
- 一、ことわりのすぎたる
- 一、物知りがおにいう



「こころを伝える」お茶会での一コマ(大谷二区)



私たちはみられている…

- 一、さとりくさき話
- 一、茶人くさき話
- 一、学者くさき話
- 一、風雅くさきはなし
などなど

こうして考えてみますと、やはり私たちは言うよりは着実に、しっかりと実行することが大事であると言えそうです。

形を整えることから始めよう

それでは、私たちは何を心がければよいでしょうか。私は、よくこんな質問を受けます。

「お坊さんはなぜ頭をそめるのですか。なぜ衣(ころも)を着るのですか。」

説明はいろいろあります。説明はいつても頭をそるが、何と言つても頭をそるとさっぱりし、私は僧侶(そりよ)なんだという気持ちになり身が引き締まります。さらに外出したときには、人の目をひきやすく、僧侶としての態度をとらなくては、という自覚が強くなります。

他の人からみれば、「あつ、お坊さんだ」ということで、

皆さんの態度や言葉が変わります。親切にして下さいます。衣(ころも)を着ているときには、もつとはつきりします。人や時間や場所に関係ありません。

さて、皆様も着物を着たときのことを思い出してみて下さい。着物を着ると、おなかに力がわいてきたような気持ちになり、姿勢がよくなります。そして、何かこう威厳を持った態度をとり、しぐさをしなければという気持ちがわいてくると思えます。

また結婚式に参加したり、子供さんの卒業式に出席したりしたときのことを思い

出して下さい。頭をきれいにし、服装をきちんとして出かけると思えます。このときの気持が大切なのです。形を整えると、少々のことでは形が崩れません。そして落ち着きが出てきます。さらにあわてることがないため心がゆったりし、優しさも出て広い心になれるのではありませんか。

このようなことをときどきは思い出し、意識したいものです。こここのところを、子どもさんやお孫さんたちがみているのだと思えます。これこそが受けつぎ伝えられていく、私たちのこころなのではないでしょうか。

まずは、今年の正月から実行していきましょう。

(教育広報委員 塚本且道)





大島団地でのキャンペーン風景

“朝日町の味”は いかがー

りんごとワインの
東京キャンペーン



「朝日町の味」を都会の人たちに届けようと十二月二十日、東京都江東区の大島団地を会場に、朝日町りんごとワインの消費拡大キャンペーンが行われました。これは町と農協とワイン工場が共催で行っているもので、大島団地での開催は昨年引き続き二回目。この団地は八棟のアパートが建ち並び、住居者は二千五百世帯で七千人。中央広場で午前十一時から始まったキャンペーンは開始と同時に長い列が続き、四百個のカゴ入りりんごと五百本のワインは二時間たらずで売り切れ。フレッシュな蜜入りりんごやワインの試食試飲も大好評で、キャンペーン終了後の団地自治会との懇談会では、次回には漬物やキノコなども含めた物産市を、との要望も出されました。



和合ミニバスケットチーム

和合ミニバスケが県3位 東北大会へジャンプ!

12月20日に行われた山形県ミニバスケットボール交歓大会で、和合ミニバスケットボールスポーツ少年団の男子チームが初の3位に入賞。同大会は、県内4ブロックの予選大会3位までの12チームが、全国大会の出場権をかけた行われたもので、同チームは3月に開かれる東北大会の出場権を手に入れました。



表彰を喜ぶ白田さん

身体障害者の福祉に貢献

白田八十二さんに厚生大臣表彰

このほど大谷一の白田八十二さん(76歳)が、厚生大臣より身体障害者福祉功労者として表彰されました。同氏は、製材業を営むかたわら昭和三十八年から町身体障害者福祉協会会長を

務め、現在は県の協会会長、全国の協会理事の要職にあつて、援護・更生活動やスポーツ事業などを通して身体障害者の福祉向上に貢献されているものです。

さらに同氏は、町育英会副会長や大江地区交通安全協会会長も務め、側面的な活動を通して障害者をもつ家庭への支援と事故による障害者の発生防止に尽力されているものです。

三中Aが優勝

家庭婦人ボール大会

第十四回家庭婦人バレーボール大会が十二月十三日(日)、町民体育館と朝日中学校体育館を会場に開催。今大会には二十三チームが参加。ダンナさんや子どもたちが声援する中、二十一点三セットのトーナメント戦で熱戦が展開され、決勝戦は三試合をストレート勝ちで進んだ三中Aチームと昨年優勝の本町チームの対戦。波にのった三中Aが二対〇のストレートで本町を下し、四年ぶり二度目の優勝を果たしました。三位は和合、栗木沢チーム。



優勝にわく三中Aチームのメンバー

ふるさとへの便り

▶60



*プロフィール

- 昭和4年、父の出身地和合で生まれる。
- 昭和25年、新任教師として西五百川中学校に2年、西五百川小学校に1年勤務。昭和36年から21年間、静岡県立沼津盲学校に勤務。現在退職し、障害児母子教室の相談員としてボランティア活動に従事。
- 趣味 油絵・卓球

朝日町の皆さん、明けましておめでとうございます。美しい自然の中にたたく私のおふるさと朝日町に、懐かしくペンを取らせていただきました。

私は九歳まで、父の勤務する送橋小学校で育ちました。近くの山に栗拾いに行ったり、細い坂道をおりて川に水あびに行ったり、おさいとの炎が雪に映える

美しい自然と温かい心のふれあい

静岡県沼津市五日町 佐治 琴さん

中でお習字を燃やしたり、村の方々もとても温かく、幸せな楽しい毎日でした。小学四年生の終りに父の転勤で送橋を離れましたが、昭和二十五年、師範を卒業した私は西五百川中学校に勤務することになったので

す。何もわからない新卒の女の子を、村の人たちはほんとうに温かく迎えて下さいました。今は統合して朝日中になったと伺いましたが、六三制が軌道に乗りました頃、木の香も新しい西五百川中は元氣いっぱい

子どもたちであふれ、授業のことよりも植林作業で子どもたちといっしょに歩いた山道とか、放課後の歌声やグラウンドをかける子どもたちの喚声などをふっと思い出します。

今年の春、東京にいますという当時の教え子から突然電話がありびっくりしましたが、在京の人たちもそれぞれふるさとへの思いを誇りにがんばっている様子なので嬉しく思いました。同時に朝日町でも、当時の皆さんが今や町の中堅として立派に活躍していることを知り、感慨を深くいたしました。

年ごとにふるさとには懐かしくなるものなのですが、あの美しい山や川、土や草や雪を渡る風、匂い、それにもましてふれあえた人の心の温かさを私は忘れることができません。

この度「広報あさひ」を読ませて戴き、ふるさとの力強い歩みと、見違える程立派になった町の様子を知ることができました。

今、和合りんごのすばらしい甘い香りの中で遠いふるさとに思いを馳せています。家族旅行村のオープンをはひかえ、朝日町の益々の発展と、皆様の御健勝を心からお祈りし、ペンをおかせていただきます。



楽屋うらではお母さんたちが奮闘中

おはなしのプレゼント クリスマスこどものつどい

12月19日、宮宿公民館で「クリスマスこどものつどい」が開かれました。これは宮宿地区を中心としたお母さんたちの読書グループ「宮宿公民館文庫おはなし会」(会員12人、代表渡辺滝子さん、元町)が、子どもたちに本に親しんでもらおうと毎年開いているもの。集まったおよそ100人の園児や小学生らは、本の朗読やゲーム、自作のエプロンシアターや人形劇などの出し物に、ひと足早いクリスマスを楽しみました。

いもがわ郷の方言集



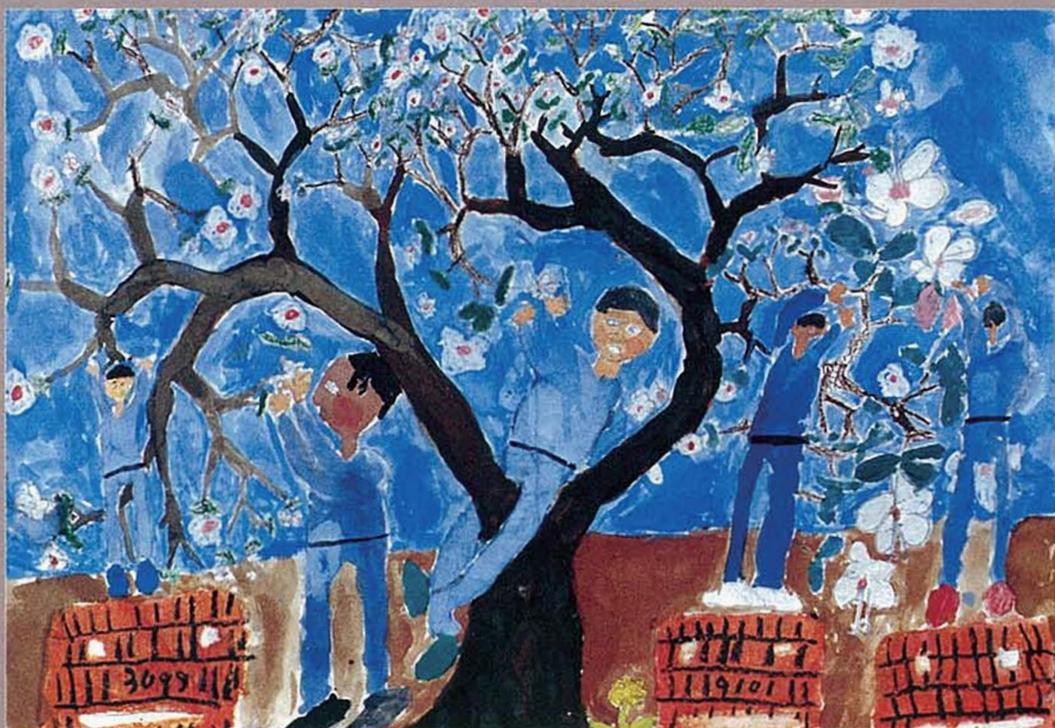
発刊された「いもがわ郷の方言集」

町の方言集を発刊

おへったが

一歩会が

最上川イカダ下り大会などユニークな活動で知られる一歩会(菅井敏夫会長・会員23人)が、このほど町の方言およそ六百の言葉を小冊子にまとめ発刊。言葉文化としての方言を記録保存するとともに、町の魅力づくりに「なげえが」生かそうと話し合っています。



りんごの花摘み

暖日山に朝日があふれ
新しい春の熟れるとき、
つぼみのときの紅色を
五つの花びらに淡く溶かして、
りんごの木は沈黙する。

やがて、りんごの花が
肩よせあつて咲きほこると、
芯花を残しての摘花がはじまる。
花摘みを手伝う子どもたちは、
「かわいそう」と声をかけながら、
一つ一つ 摘んだ花にお別れをする。

ひとり残された芯花は、

ただ ひたすらに
結実への道を辿っていく。
沈黙していたりんごの木は、
摘みとられた花たちの
健気な心にうたれ、
一途にまるやかな果実を育てあげる。

ふるさと朝日町を彩る
真紅のりんごの色は、
摘みとられた花たちの
はかない生命の紅を凝縮した、
あたたかい健気な心の色である。

文／杉 ひさし

絵／岡崎兼太郎君（送橋小二年）

こども県展賞作品